平成29年度　第2回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

１　日　時　平成３０年２月２２日（木）午後３時から
２　場　所　生駒ふるさとミュージアム　多目的室
３　出席者
（委　員）森岡伸枝（議長）・安部敬二郎委員・大原暁委員・近藤裕一委員・清水泰之委員
中田弘司委員・藤尾清司委員・平井冨久子委員・松山敏宏委員

（事務局）西野生涯学習部長・清水生涯学習課長・梅谷生涯学習課課長補佐・向田図書館長・錦図書館南分館長・平澤図書館北分館長・中谷駅前図書室室長・吉岡スポーツ振興課長・西スポーツ振興課課長補佐・佃生涯学習文化係長・村上生涯学習文化係員

（欠席者）山中賢司委員・米田惠美子委員・中浦新悟委員・中谷友美奈委員・森本照太郎委員

（会議の公開・非公開）　公開

（傍聴者）なし

４　議事内容

○　審議案件
（１）　近畿地区社会教育研究大会等の報告について
各参加委員から感想を聞く。

平井委員　　奈良県社会教育研究大会に参加した。「小さくても身近に図書館のあるくらし」というテーマで、東京都出身の下北山教育委員の方の報告だった。下北山村には図書館がなく図書環境が整っていないことに気づいた発表者が NPO 法人きなり（村民のためなら何でもするという団体）の協力のもと旧公民館を利用し、開館日も土日の 13 時~17 時と限定された小さな図書館「ぽこぽん図書館」を開設した経緯をお話しいただいた。本を身近に感じられる環境を味わっていただくのはとても良いことだと思った。このお話を聞いて、私の運営している文庫で棚に出しきれていない子どもの本を選んでダンボールに２箱寄贈した。

近藤委員　　近畿地区社会教育研究大会の「自由な居場所から広がる地域のつながり」の分科会に出席した。大阪府河内長野市で行われている「男談」の活動についての報告だった。「男談」とは女性は参加することのできない男性だけの井戸端会議の延長のようなもので、何かテーマを決めて話をするわけではない自

由に談笑する集まりである。男性は組織の中で動く訓練は出来ているが個人対個人のコミュニケーションには慣れていない。そんな男性が「男談」を通じて地域とのかかわり方を学び、実際に地域活動に加わり、地域の人材発掘につながっていくという事例だった。生駒市でも地域の人材を発掘し、活性化させることに参考になるのではないかと思った。

松山委員　　近畿地区社会教育研究大会の「学校・家庭・地域の連携協力を進める事業の実施」の分科会に出席した。学校サポートネットという校園から依頼があれば、その支援をする活動をされている団体で、その方がおっしゃっていたのは、会議に出席するだけで社会教育のサポートにまわることは難しく、そのあたりに歯がゆさを感じると言っておられたのが印象に残っている。

藤尾委員　　近畿地区社会教育研究大会の「知る・伝える・つなぐ」～宇陀松山の取組を通して～の分科会に出席した。
平成１８年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された宇陀松山の地域づくりにおける社会教育の役割についての報告だった。印象深かったのは、かぎろひを観る会という団体がコンサートなどのさまざまなイベントをしているということ。商店街主催の夏祭りで古民家のライトアップなどをおこなっておられる。コーディネーターの方が「聞いたことは忘れる、観たことは覚えている、体験して初めて理解できる」とおっしゃっていたのが印象に残っている。

（２）　平成３０年度生駒市社会教育の重点目標（案）について
事務局から説明

（質　疑）

清水委員　　平成３０年度生駒市社会教育の重点目標（案）４すべての人が楽しく安心して成長できる機会の確保に「個々人」とあるが、「個々」でいいのではないか。
「学校・家庭・地域とが連携した家庭教育支援の充実」とあるが、この目的は、家庭教育を充実させることであって、支援を充実させることではないので、学校を地域の中に含めて、「地域社会と連携し家庭教育の充実に努めます」でいいのではないか。
平成２８年度に様々な法律が改正され、この法改正のキーワードは「合理的配慮」であり、社会教育の中にも含めてほしい。３のスポーツ関係の中に「障がいのある人がスポーツに親しみ、楽しむ機会」とあるがハード面はどうなっているのか。

事 務 局　　施設のハード面の配慮も「スポーツに親しみ、楽しむ機会」の中には含めて考えている。細かく記入できないのでこのような表記になっている。体育施設では、スロープや障がいをお持ちの方にも気楽に利用していただけるように整備している。トイレの問題は学校や市全体で施設整備計画を作成し順次進めてい

る。

清水委員　全体の基本理念として、ハンディを持った人々の視点は持ってほしい。「環境整備」と文言があるので、障がい者が利用しやすいなど入れた方がいいのではないか。

事 務 局　ハード面については、体育施設は基本的には障がい者の方の対応はできているので、重点目標（案）はソフト面中心の目標になっている。

事 務 局　重点目標（案）なので、すべてを列記することはできない。スポーツ振興課では、障がい者のスポーツ活動の支援を重点に置いて今後の目標を考えている。大きな目標としては高齢者のスポーツや子どものスポーツ活動の推進も目標には掲げているが、30 年度の重点目標としては、障がい者の方にスポットあてた目標になっている。

藤尾委員　障がい者スポーツはどのように発展させていくのか。イベント的に障がい者スポーツを行うのか。競技スポーツまで高めるのであれば指導員や指導のノウハウの確保はどのように考えているのか。「新たなクラブの設立に向け」とあるがどのようなことを考えているのか。総合型地域スポーツクラブとは何か。その連携会議の具体的な内容とは何か。

事 務 局　設備面は、多目的トイレなどを充実させるなど出来るだけ障がい者の方が使いやすい施設になるように整備する予定。障がい者のスポーツを競技スポーツまで高めることはまだまだ計画できる段階には至っていないので、まずは、スポーツを楽しんでいただく、体育施設を利用していただくきっかけづくりとなるような事業の開催を考えている。
指導員などの問題は、新規事業ということもあってなかなか難しい面がある。市内の支援施設などと連携しながら進めており、スポーツ推進委員の中には支援施設の方や、またスポーツ推進審議会の委員には高等養護学校の教諭もいらっしゃるので、そういう方々と連携しながら進めていきたい。
今後、障がい者の方も健常者の方も同じようにスポーツに親しんでいただいて競技を目的とする方が出てくれば、そういった方も支援していきたいと考えている。

事 務 局　総合型地域スポーツクラブというのは、地域の方でつくられた非営利の団体で、さまざまなスポーツに関することを行っておられる。「新しいクラブの設立に向け」とあるのは、指定管理者の中でスポーツクラブの設立に向けて動いていただいている。すでに指定管理者のひとつである生駒市体育協会がスポーツクラブを設立されている。各団体、指定管理者が自主事業を開催しているので、連携して行っていければと考えている。

清水委員　すべての人に機会を与えることが、社会教育の基本となるので、障がい者の視点を持つことは、すべての人への配慮につながっていくことを忘れないでほしい。

近藤委員　１「人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり」にある新規事業の中に「まちかど図書館」とあるが、常設されるものなのか単発事業なのか。

２「文化・伝統・芸術を通じた、より豊かなまちの実現」の重点目標に「音楽のまち生駒」とあがっているが、社会教育として音楽をメインとしたまちづくりをしていく予定なのか。

３「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展の重点目標にトップアスリートを招いた事業を開催するとあるが、子ども向けのものになるのか。生涯学習というと子どもから高齢者までが対象であり、スポーツを高齢者から始めるというのはハードルが高い。以前にされていたスポーツを再度始める方が多いと思う。もし影響を与えるのであれば現役世代を対象に事業を展開して高齢者になってもスポーツをされるのが有効だと思う。

４「すべての人が楽しく安心して成長できる機会の確保」の重点目標に「家庭教育支援」というのは 0 歳児などのお子さんを持つママさん教室のようなイメージでいいのか。

事 務 局　１の「まちかど図書館」は継続事業で考えている。図書館は事業を実施する団体を支援する形になると思う。地域包括支援センター、高齢者対象のサロン等にご案内している。図書館は団体貸出の手続きやリサイクル本を譲渡するほか、それぞれの団体に本を使っての事業企画などを助言できたら考えている。

事 務 局　３のトップアスリートの連携事業ですが、オリンピックも近いので、来年度はメダリストクラスのアスリートの招聘を考えている、事業に参加となると小中学生が対象になるとは思うが、スポーツの観点からすると「みる、する、ささえる」が一般的になっているので、障がいをお持ちの方や子どもから高齢者の方も含めた募集をする予定。

事 務 局　４の家庭教育支援チームは文部科学省で推進している事業であるが、乳幼児から中学生の保護者に対する家庭教育の学びの場の提供、親子交流の場の事業として、子育てサロン、家庭訪問を主とした相談支援事業などが該当すると考えられる。現在開催している家庭教育ワークショップの中で、「交流・学び・相談」がキーワードとしてあがっており、このキーワードに合わせて家庭教育支援事業を H30 年度に実施していく予定。

家庭教育支援チームの設置にあたって、国の学校家庭地域連携協力推進事業補助金を活用しており、先ほど清水委員からご指摘いただいた、「学校・家庭・地域とが連携した」の文言については、「学校を核とした地域力の強化に向け、学校・家庭・地域とが連携した」という文言に修正したい。

２「音楽のまち生駒」ですが、市内の学校では吹奏楽が盛んであり、対外的に

も音楽を PR していきたいと考えている。ここ数年、音楽に力を入れていることもあり、H30 年度も継続して音楽が生駒市の特色の一つとなるように推進していきたいと考えている。

松山委員　１の図書館ですが、昨年ぐらいに中地区のまちづくり協議会を通じて６５歳以上の方を対象にアンケートを取られていた。図書館に「人に薦めたい本」というコーナーを設置してほしいと要望があがっていたが、どのようになっているか。
３のスポーツ関係ですが、プロサッカーチームを招聘していたが、今後連携して何か事業を進める予定はあるのか。

事 務 局　１の図書館ですが、すでに中地区のまちづくり協議会からアンケートに基づく本のリストをいただいており、図書館内にコーナーを作る準備を進めています。また、５月の総会で「まちかど図書館」について周知し、協力いただく団体を募る予定です。

事 務 局　３のスポーツ関係ですが、生駒北スポーツセンターで開催した事業ですが、こちらは HOS グループが指定管理者として管理しており、施設が空いている日を利用して自主事業を開催することになっている。生駒北スポーツセンターでは、かけっこ教室など様々な自主事業を展開しているが、新たな自主事業としてサッカー教室を開催するという提案があった。FC バルセロナという世界的にも有名なチームを招いての開催ということで、シティプロモーションの発信になり、また、幼稚園、小学校、中学校においても無料のサッカー教室を開催するなど生駒市に貢献してくれることもあり、このような自主事業は歓迎している。FC バルセロナのサッカー教室は、福岡、葛飾に次いで 3 番目であり、福岡校では約 30 人が J リーグの下部組織に入団したということなので、生駒からもトップアスリートが育ってくれたらと考えている。ただ、あくまでも、指定管理者が行う自主事業である。

平井委員　４に困難を抱える子どもとあるが、近年子どもの貧困が取り沙汰されているが、生駒市ではその実態を把握しているのか。香芝市では市役所に一人スクールソーシャルワーカーが在籍している、大和郡山市と生駒市では週に 4 時間在籍とあるが、生駒市ではどのように対応しているのか。

事 務 局　子どもの貧困は社会的な問題となっているが、実態把握は難しい面がある。子どもの貧困は世帯としてみると生活困窮が影響していると考えられ、その相談は社会福祉協議会などで対応している。開設した相談窓口では、不登校などの相談も受けているが、経済的状況も含めてその背景にあるさまざまな原因を突き詰め、それによって適切な支援機関に繋げていくことが必要であると考える。

事 務 局　本日いただいたご意見をふまえ、重点目標（案）の文言を修正し、議長と協議の上、委員の皆様に郵送で送らせていただく。

（３） その他

会議開催前の意見交換会について議長から報告

（内容）

中田委員から報告を受けた、地域につながる機会づくりとして、生駒市子ども会育成連絡協議会の活動について

閉　　会